



朝来市学校施設等長寿命化計画

＜概要版＞

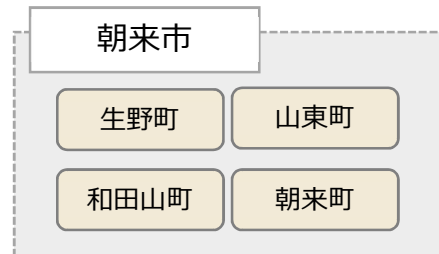
1.学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	P1
2.学校施設の目指すべき姿	P2
3.学校施設の実態	P2
4.学校施設整備の基本的な方針等	P4
5.基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	P5
6.長寿命化の実施計画	P5
7.長寿命化計画の継続的運用方針	P7



1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

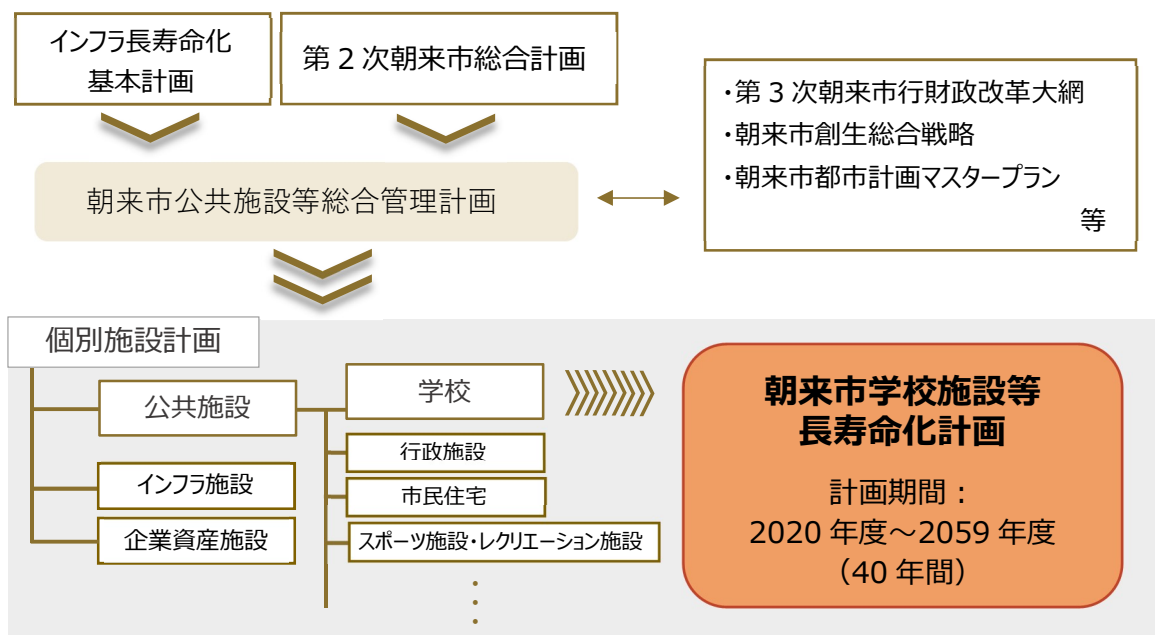
1.1. 背景・目的

本市は4町合併により誕生し、合併前の各町が保有していた施設の中に機能や役割が重複する施設が複数存在し、今後改修や更新に多額の財政負担を伴うことが考えられます。また、学校施設は地域住民にとって最も身近な公共施設として、まちづくりの核となる重要な役割があり、地域との連携を考慮する必要があります。



従来の事後保全の考え方から、施設の使用年数を延ばす長寿命化中心・予防保全の考え方を取り入れた手法へと転換を図り、中長期的な更新・維持管理等に係るトータルコストの縮減や財政負担の平準化を図ることを目的とした「朝来市学校施設等長寿命化計画（以下、「本計画」という。）」を策定します。

1.2. 計画の位置付けと計画期間



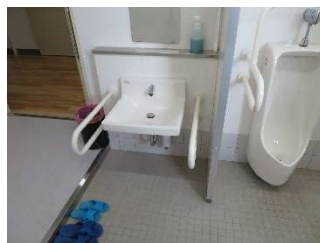
1.3. 対象施設

	学校数	棟数	延床面積(m ²)
こども園	7	10	6,380
小学校	9	29	39,973
中学校	4	13	24,888
計	20	52	71,241
給食センター	—	1	2,344
合計	20	53	73,585



2. 学校施設の目指すべき姿

児童生徒が安心して学校生活を送るため、安全で質の高い学習環境の整備を図ります。そのために、学校施設の計画的な改修や I C T 環境の整備などの学習環境の整備・充実に取り組みます。



3. 学校施設の実態

3.1. 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

● 計画上の施設

学校：20 施設 52 棟

給食センター：1 棟

● 過去 5 年間の施設関連経費

年平均額：5.4 億円

※和田山中学校の改築事業を除いた場合の
施設関連経費の年平均額：3.7 億円

● 施設の保有量(対象施設の築年別整備状況)

	棟数	面積合計	構成比
築 50 年以上	6 棟	6,773 m ²	11.3%
築 49~40 年	13 棟	26,186 m ²	24.5%
築 39~30 年	14 棟	17,236 m ²	26.4%
築 29~20 年	7 棟	7,529 m ²	13.2%
築 19~10 年	3 棟	1,712 m ²	5.7%
築 10 年未満	10 棟	14,149 m ²	18.9%
合計	53 棟	73,585 m ²	100.0%

● 対象施設一覧

施設名	建築年度 (年度)	延床面積(m ²)	
		園舎・校舎等	体育館
生野こども園	2003	967	
糸井こども園	1978	954	
大蔵こども園	1979	946	
東河こども園	2011	574	
竹田こども園	2011	973	
中川こども園	1986	877	
山口こども園	1976	1,089	
生野小学校	1971	3,524	862
糸井小学校	1973	2,914	1,164
大蔵小学校	1976	3,401	1,065
枚田小学校	1975	4,131	1,103
東河小学校	1997	2,821	1,203
竹田小学校	1977	3,453	1,465
梁瀬小学校	1982	3,438	1,256
中川小学校	1984	2,582	997
山口小学校	1979	3,477	1,117
生野中学校	1960	3,804	996
和田山中学校	2010	6,641	1,811
梁瀬中学校	1958	3,817	1,677
朝来中学校	1964	4,695	1,447
朝来市学校給食センター	2015	2,344	
用途別延床面積合計		57,422	16,163
延床面積合計		73,585	

※建築年度は施設内で古い年度を記載

● 児童生徒数の予測と推移

	実数		推計					
	2015	2019	2020	2025	2030	2035	2040	2045
児童数	1,528	1,479	1,421	1,239	1,081	970	894	814
生徒数	852	728	735	640	559	501	460	418
合計	2,380	2,207	2,156	1,879	1,640	1,471	1,354	1,232

※2015 年の国勢調査の結果に基づいた社会保障・人口問題研究所の推計結果を利用して作成

3.2. 整備対象学校施設の老朽化状況の実態

●こども園・小中学校施設の現状

▶ 構造躯体の健全性の評価

躯体の詳細な調査が必要とされるコンクリート圧縮強度が 13.5N/mm²以下の施設はありません。

▶ 劣化度調査結果(棟別)

評価	棟数			合計	割合
	校舎・園舎	体育館	給食センター		
A	10	1	1	12	22.6%
B	19	4	0	23	43.4%
C	8	6	0	14	26.4%
D	2	2	0	4	7.5%
合計	39	13	1	53	100%

C 評価

広範囲に劣化し、安全面や機能面で不具合が発生する可能性があり、予防保全的な老朽化対策を実施。

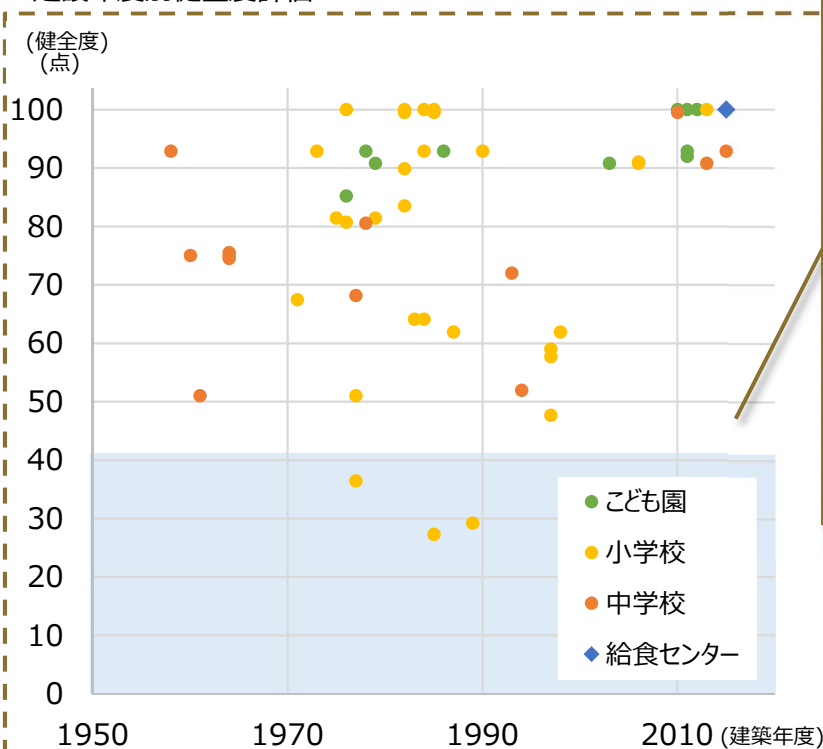
D 評価

早急に老朽化対応を実施

▶ 劣化度調査結果(部位別)

評価	屋根・屋上		外壁		内部仕上		電気設備		機械設備	
	棟数	割合	棟数	割合	棟数	割合	棟数	割合	棟数	割合
A	25	47.2%	13	24.5%	29	54.6%	39	73.6%	31	58.5%
B	23	43.4%	30	56.6%	11	20.8%	14	26.4%	13	24.5%
C	3	5.6%	9	17.0%	10	18.9%	0	0%	8	15.1%
D	2	3.8%	1	1.9%	3	5.7%	0	0%	1	1.9%
合計	53		53		53		53		53	

▶ 建設年度別健全度評価



40 点未満の棟

小学校(体育館)
延床面積：997 m²
健全度：27 点

小学校(体育館)
延床面積：1,164 m²
健全度：29 点

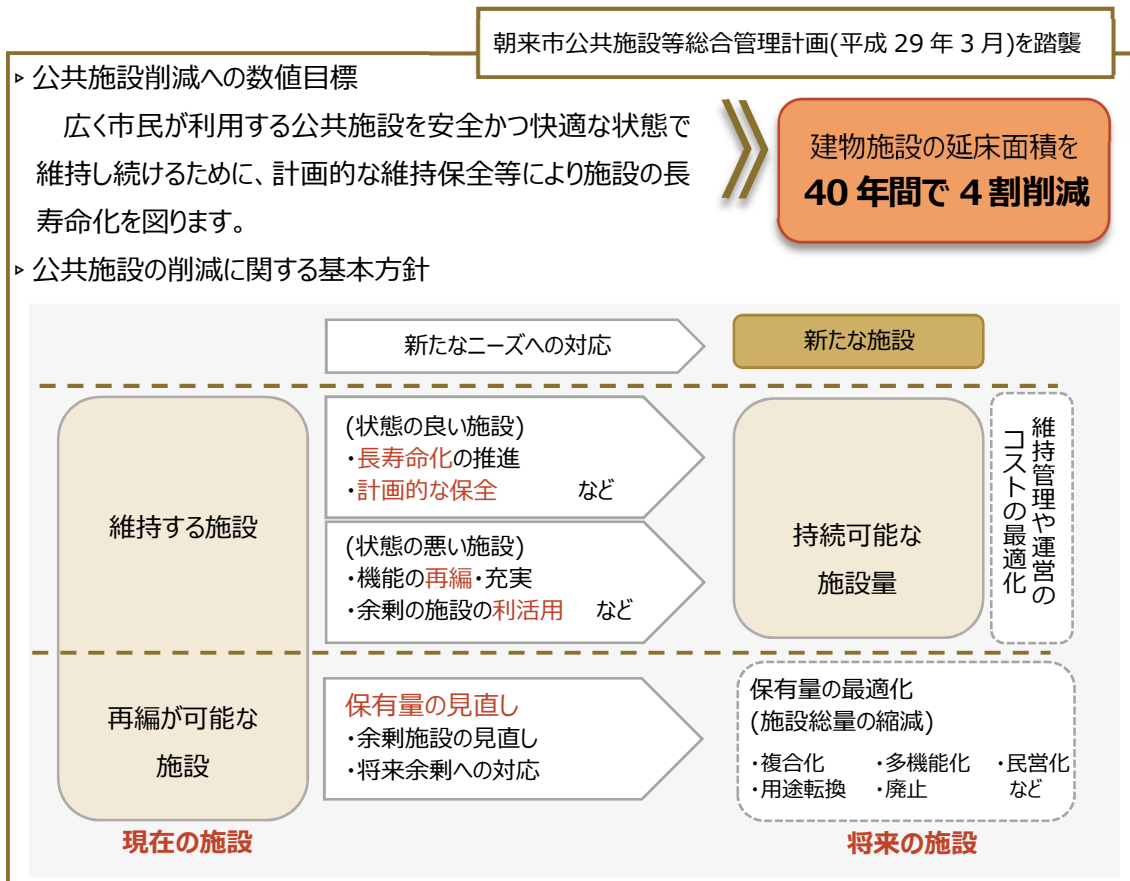
小学校(校舎)
延床面積：2,422 m²
健全度：36 点



4. 学校施設整備の基本的な方針等

4.1. 学校施設の規模・配置計画等の方針

● 学校施設の長寿命化計画の基本方針



4.2. 改修等の基本的な方針

● 長寿命化改修の方針

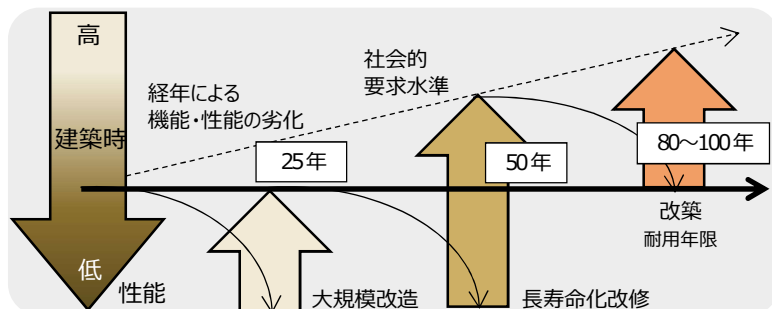
適切な維持管理を徹底することにより、中長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減・市予算の平準化を進めるため、施設の「長寿命化」を推進します。

● 予防保全の導入

「予防保全」は、突発的な事故や費用発生を減少させ、施設の不具合による被害のリスクを緩和します。改修費用を平準化して、中長期的に整備投資を低減することが可能となります。

● 目標耐用年数の設定

長寿命化改修等の計画修繕によって、現在概ね 50 年での改築時期を 80 年程度まで延長します。



5.基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

5.1. 改修等の整備水準

●主な整備内容

耐久性を向上	●構造躯体の経年劣化を回復する ●耐久性に優れた仕上げ材に取り替える ●維持管理や整備更新の容易性を確保する ●水道・電気・ガス等のライフラインの更新	機能・性能の向上	●教育環境の質的向上 ●省エネルギー化・再生可能エネルギーの活用 ●バリアフリー化 ●木材の活用 ●衛生環境の向上（トイレ・給食室等） ●室内における落下物や飛散物のない空間確保
--------	--	----------	--

5.2. 維持管理の項目・手法

●日常点検

日常的な点検については、学校を日常的に使用する教職員による異常の確認が必要です。

●定期点検

建物の劣化・損傷の状況や防火壁が撤去されていないか等の基準への適合性、非常警報・屋内消火栓等の消防設備の動作状況など、建築基準法による3年に1回の特定建築物の定期点検等を専門家により実施していきます。

6.長寿命化の実施計画

6.1. 改修等の優先順位付けと実施計画

●学校別整備優先順位

施設の劣化状況 評価点数		学校施設重要度（2040年頃）		
		学年別適正学級数 (複数)レベル	学年別1学級数レベル	複式学級レベル 地域施設としての存続 性検討レベル
施設劣化状況 評価点	80点以上	枚田小（校・体） 和田山中（校・体）	大蔵小（校・体）・竹田小（体） 梁瀬小（校・体）・中川小（校） 山口小（校）・梁瀬中（校）	糸井小（校）
	60～79点	—	東河小（体）・山口小（体） 朝来中（校・体）	生野小（校・体） 生野中（校2） 生野中（体）
	40～59点	—	東河小（校）・竹田小（校2） 梁瀬中（体）	生野中（校1）
	40点未満	—	竹田小（校1）・中川小（体）	糸井小（体）

●10 年間の実施計画

(単位：千円)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	合計
生野こども園										園舎 79,778	79,778
山口こども園		園舎 12,578									12,578
生野小学校	校舎 28,109		校舎・ 体育館 75,441								103,550
糸井小学校			体育館 84,506								84,506
大蔵小学校	プール 25,000										25,000
枚田小学校	校舎 24,143		体育館 18,563								42,706
東河小学校	校舎 32,744						校舎 232,733			体育館 87,338	352,815
竹田小学校	校舎 25,232								校舎 587,010		612,242
梁瀬小学校		プール 25,000									25,000
中川小学校		体育館 72,382									72,382
山口小学校	校舎 24,472			体育館 81,094							105,566
生野中学校								校舎 646,680			646,680
梁瀬中学校					体育館 121,750						121,750
朝来中学校						体育館 105,052					105,052
合計	159,700	109,960	178,510	81,094	121,750	105,052	232,733	646,680	587,010	167,116	2,389,605

空調整備
部位別修繕
大規模改造
長寿命化改修

※大蔵小学校と梁瀬小学校は、プール本体の改修工事である

6.2. 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

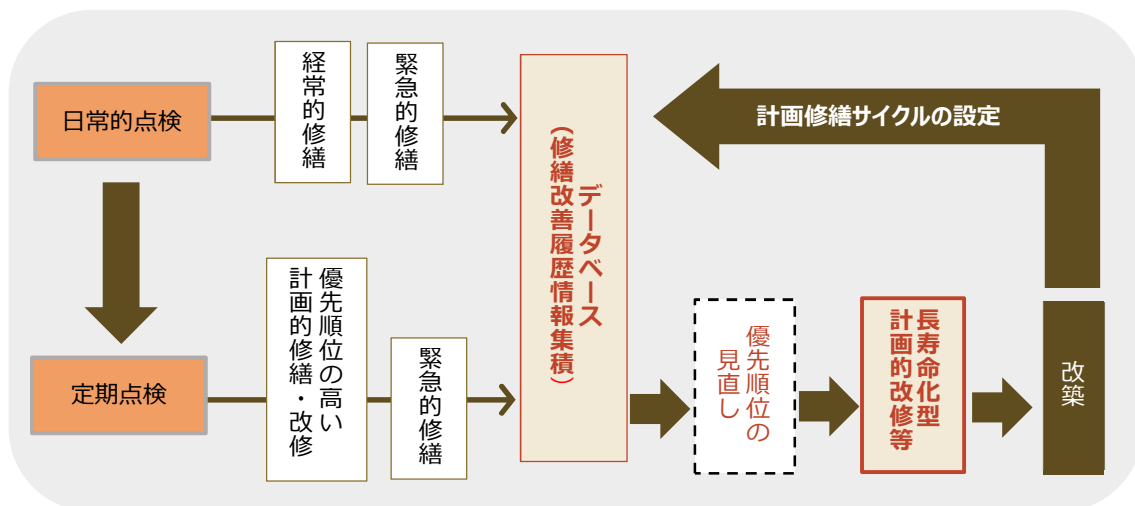
●長寿命化・平準化の効果

区分	40 年間総額	年平均額	備考
従来型	314.0 億円	7.9 億円	文科省エクセルソフトによる
長寿命化型	260.0 億円	6.5 億円	文科省エクセルソフトによる
事業計画(案)	157.2 億円	3.9 億円	当初 20 年間は 3.4 億円/年

7.長寿命化計画の継続的運用方針

7.1. 情報基盤の整備と活用

日常的な点検や定期点検により明らかとなる緊急性を要する修繕・改修事項、優先順位の高い修繕・改修事項などの情報をデータベースに集積し、その情報を庁内関係各課や営繕担当者、各学校と共有して連携を図るとともに、長寿命化計画に反映させ優先順位を見直すことで、継続的に運用できるメンテナンスサイクルの構築を図っていきます。



7.2. 推進体制等の整備

教職員一人ひとりが学校施設を取り巻く状況を理解し、主体的に地域と関わり、保有量の最適化や計画的な保全、効率的・効果的な維持管理・運営の取組を実践していくことが重要です。

そのために、教職員を対象とした研修会を定期的を開催するなど、意識啓発はもとより、施設の点検等に係るノウハウの蓄積や継承のための取組を進めます。

7.3. フォローアップ

フォローアップは、3年ごとに実施する専門業者による建物の定期点検（建築基準法 12 条点検）等の結果を基に行うものとします。

この点検結果により緊急性を要する修繕・改修事項や優先順位の高い修繕・改修事項が、長寿命化計画における修繕・改修計画と異なっている場合は、必要に応じて改修等の優先順位の見直しを適時適切に行うこととします。